

令和3年度 学校経営計画

1 学校教育目標

「学力の充実 品性の陶冶 心身の鍛錬」

2 学校の特徴

本校は大正9年に創立された富山県立神通中学校を前身とし、昨年百周年を迎えた。「鍛錬・自治・信愛」の伝統的精神を継承し、健全な心身、優れた知性、豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めている。

本校は富山市の中心街に近く、閑静な住宅・官庁街に位置している。また豊かな自然環境にも恵まれ、神通川の清流に臨み、立山連峰の雄姿を仰ぎ見ることができる。

高い能力と強い向上心を持つ生徒が県内の広い範囲から大勢集い、切磋琢磨に努めている。教職員は、生徒の学問的な探究心を満たし、生徒の進路希望をかなえるため、充実した学習指導を行っており、また、部活動や学校行事の指導にも力を入れている。平成26年に竣工した新しい校舎で、生徒は意欲的に学校生活を送っている。

普通科と理数科学科・人文社会科学科〔探究科学科〕が設置されており、平成31年には、文部科学省の研究開発事業である「スーパーサイエンスハイスクール(S S H)」第2期目の指定を受けている。また平成11年から中国東北育才学校と友好校提携協定を締結し相互交流を行い、さらに実践的英語力を高め国際性を養うために、平成26年度からはアメリカ研修を、平成27年度からは「科学的思考力」「自己発信力」の伸長を図るオーストラリア海外研修を実施している。

3 学校の現状と課題

意欲的な学習を通して、自らの進路を切り拓いていく力を育てるとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育むことが本校の課題である。

S S H事業の実施においては、開始8年目を迎え、全生徒に対して、「科学的思考力」「自己発信力」をベースに生涯にわたり「探究力」を磨き続け、地域から地球規模にいたるあらゆる局面において、科学的かつ倫理的見地から問題を考え、新しい社会を共創することができるグローバルリーダーを育成する。そのために各校務分掌や事務部が連携し、全職員によって計画的かつ組織的に事業を推進することを課題とする。

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(1)	校務運営 (Eその他)	目標	○全教職員が教育目標の達成を目指して連携協力し、共通の問題意識をもって取り組み、保護者と情報を共有して風通しのよい学校運営をすすめる。 ○教員がゆとりをもって、教育活動に取り組むことができる学校をつくる。
		計画	○教職員相互の協力態勢を強めるとともに、保護者や学校評議員に対して、本校の教育活動の状況について、定期的に説明を行う。 ○会議の回数の削減、会議時間の短縮、会議資料の縮減に取り組む。 ○円滑な校務運営と教職員間のコミュニケーションツールとして積極的にデスクネットを活用する。
(2)	教育課程 (A学習指導)	目標	○教育目標の実現を目指し、生徒の全人的発達を促す教育課程を編成する。 ○生徒の進路希望をかなえるため、学力の充実をはかる教育課程を編成する。
		計画	○学力の充実はもとより幅広い人間性の育成や健康、体力、安全に関する指導の充実をはかる教育課程を編成する。 ○生徒の学力の状況や大学入試に関する情報を的確に把握し、教育課程の編成に反映させる。 ○理数・探究活動に関わる学校設定科目を研究し、開発する。 ○現行のカリキュラムを評価し、改善点があればよりよいものにする。 ○令和4年度から実施される高等学校新教育課程(新課程)のカリキュラムを作成する。

(3)	学習指導 (A学習指導) 重点1①②	目標	○生徒の学力を向上させる。 ○生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢を養う。
		計画	○定期的に互見授業を実施し、授業の水準を高める。 ○生徒が計画的に学習できるよう各教科で定期考査にあわせた授業計画表を提示する。 ○新入生対し、学習に関するオリエンテーションを実施し、高校での学習方法・習慣を早期に確立させる。 ○少人数授業や個別指導を通して、きめ細かい指導を行う。 ○生徒が主体的に学習できるようにアクティブラーニングの手法を取り入れる。 ○学習効果を高めるためのICTの活用を積極的に行う。 ○テストの見直しを喚起し、学習内容の理解・定着に役立てる。 ○面接指導を充実し、学習意欲の向上に努める。 ○探究的な活動を通して、生徒に主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 ○課題を精選し、生徒が自主的に学習を進めることができるよう指導する。 ○全ての教科で学期毎に指導を振り返り、今後の指導の改善に役立てる。 ○行事を見直し、授業時間確保に努める。 ○授業時間が不足する教科は、特別編成授業を工夫するなど授業時間の確保に努める。
(4)	進路指導 (C進路指導) 重点2①②	目標	○自己の将来像に連なる進路意識を醸成し、進路希望の実現をはかる。 ○第一志望をあきらめず、難関大学への進学意識を育成する。
		計画	○「進路講演会」や「先輩に学ぶ会」を実施し、進路についての理解を深めさせる。 ○「大学探訪」や「海外研修」の実施、および面接指導の充実により、進路実現をはかる意欲を高めさせる。 ○SSHの取り組みをはじめ、大学等と連携した探究的な学習活動・体験の機会を利用し、大学で何をするかについて具体的なイメージを抱かせる。 ○既卒生への対策を充実させ、本校卒業後も高い志望に向かって学習に集中できる環境を構築する。
(5)	生活指導 (B生徒指導)	目標	○品性の陶冶、豊かな人格の形成をはかる。 ○「生活あつての学習」を基本とし、生徒に規律ある生活を確立させる。
		計画	○全職員で生活指導（基本的生活習慣の確立、遅刻の防止、端正な服装、交通ルール、マナーの遵守、身体・生命の安全への認識の向上等）を日常的に行うとともに、個々の生徒の状況に応じた個別指導を行う。 ○挨拶、正しい言葉遣いを実践させる。 ○さわやか運動、ボランティア清掃活動に積極的に参加させる。
(6)	心身の鍛錬 (読書指導と 体力向上) (B生徒指導) 重点3①②	目標	○図書館利用や読書運動を通して、読書意欲を育て、読書習慣を確立させる。 ○「読書の時間」において探究型読書を推進し、読む力および表現力を育成する。 ○生涯にわたる生活の基本となる体力を養う。
		計画	○「読書の時間」を充実させ、読書運動を推進する。 (必読図書・選択図書の選定、読書記録ノートの使い方や読書会の指導) ○読書教養講座やミニ企画展を開催する等、本に触れる機会の設定に努める。 ○生徒・教職員に対し、適時適切な図書・読書の広報や周知を行う。 ○全学年、体育の授業時にサーキットトレーニングを実施する。
(7)	特別活動指導 (D特別活動) 重点4①②	目標	○学校行事を充実させる。 ○部活動を充実させる。 ○ホームルーム活動を充実させる。 ○生徒会活動を充実させる。
		計画	○競技大会・体育大会・文化祭・コーラスコンクール等の学校行事が、人間的に成長させる場となるように積極的に取り組ませる。 ○部活動が安全で活発に行われるように環境を整える。 ○ホーム担任の十分な援助・助言・指導のもとにロングホームを自主的に行わせるなど、ホームルーム活動の活性化に努める。 ○生徒会活動を活性化させ、生徒が主体となって学校行事を運営するように努める。

(8)	教育相談 (B生徒指導)	目標	○生徒の抱える問題、悩み等に適切に対処できる教育相談を行う。 ○悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努める。
		計画	○普段からカウンセリングマインドを持って生徒に接するとともに、スクールカウンセラーの指導・助言を受けるなどして、個々の生徒に応じた教育相談に努める。 ○生徒に気になる変化が見受けられる場合は、学年・保護者との連携を密にし、連絡をとりながら適切な教育相談を行う。
(9)	保護者との 連携 (Eその他)	目標	○保護者との連携を強める。
		計画	○1、2学期末に保護者会を開くとともに、年に一度授業参観を実施する。 ○5月に学年懇談会、8月に進学懇談会(3年)を実施する。 ○夏季休業中に、必要に応じて家庭訪問を実施する。 ○教育・安全情報リアルタイム共有システムを活用する。
(10)	学年運営 1 学年 (Eその他) 重点1②	目標	○本校生にふさわしい生活習慣・学習習慣を身につけさせる。 ○自分の進路について考えさせ、将来に向けて長期展望を持たせる。
		計画	○新入生オリエンテーションなどを通して、生活のあり方、学習の仕方を指導する。 ○大学教授をはじめ社会人による講演会や進路講演会、SSHにおける実習や課題研究などの機会を通して、進路意識の高揚をはかる。
	2 学年 (Eその他) 重点2①②	目標	○精神的自立を促し、進路実現のための意欲と学力を身につけさせる。 ○中堅学年として、集団における自分の役割を自覚させ、自主性や行動力を育む。
		計画	○「大学探訪」や「先輩に学ぶ会」で進路についての意識を高めるとともに、課題研究や大学実習で探究心を養い、学習意欲を向上させる。 ○学校行事、委員会活動、部活動や英語コミュニケーションプログラムなど対外的な活動にも積極的に参加させ、リーダー性や協調性、自己発信力を育む。
	3 学年 (Eその他) 重点1② 重点2②	目標	○高い目標達成に向け粘り強く努力させる。 ○仲間や社会のために貢献する意識を高めさせ、社会に有為な人材を育成する。
		計画	○ホーム担任、教科担当者が生徒との面接指導を繰り返すことにより、高い志と継続的な努力によって、第一志望大学を譲らないという強い意識を持たせる。 ○部活動や諸行事を通して、リーダーとしての自覚と責任を持たせ、広い視野を持ち自ら考えて行動する態度を養う。
(11)	国際交流 (Eその他) 重点5②	目標	○実践的英語力を高め、国際社会で自己発信できるリーダーを育成する。 ○国際交流を通して友好親善を深め、国際性を養う。
		計画	○アメリカでの海外研修を継続して実施し、英語による「自己発信力」を高める。 ○中国遼寧省の東北育才学校との交流、オーストラリア研修を継続して実施し、授業参観や課題研究発表を通して、互いに意見交換ができる研修にする。
(12)	広報活動 (Eその他)	目標	○広報活動を積極的に行い、本校の教育について、広く知ってもらう。
		計画	○中学校に対する説明会、及び中学生対象のオープンハイスクールを実施する。 ○学校案内パンフレットをより充実させるとともに、ホームページ(HP)を利用して頻繁に新しい情報を発信する。 ○学校行事の写真をPTA通信、生徒会誌、生徒会新聞、HPの更新などに有効利用するため、学校行事の画像データを集積する。 ○SSH事業についてSSH通信やHP等を利用して、生徒や保護者だけでなく、広く一般に知らせる。
(13)	探究教育 (Eその他) 重点5①	目標	○探究的な学習を通して、探究教育の実践と研究を進める。 ○SSH事業を充実させ、生徒の「科学的思考力」や「自己発信力」を育成することで、「探究力」の伸長をはかる。 ○「探究力」を向上させ、地球的視野に立ち、新しい社会を共創することができる科学技術系人材を育成する。
		計画	○探究的な学習に関する情報を収集・検討して内容をより充実させる。 ○SS基幹探究の授業内容を検討し、教材開発に努める。 ○SS基幹探究、発展探究での発表を充実させる。また、他校との交流を深めるとともに、研究成果の普及などに努める。 ○課題研究を客観的に評価するために、評価方法の開発を進める。 ○大学等の諸機関と連携し、個々の生徒の興味関心や進路に応じた見学・実習を実施する。 ○SS部(数学・物理・化学・生物・情報)の活動を充実させるとともにさまざまな学術交流に積極的に参加させる。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和3年度 富山中部高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学力の向上	
重点課題	①授業の水準を高める。 ②生徒がテスト等によって学力を自己分析し、主体的に学習を進めることができるよう指導する。	
現状	①授業力の向上を目指して互見授業等を行い、教科別授業研究会の充実に努めている。 ②課題をこなすことに終始し、テストによる学力分析と事後対策が不十分な生徒が多い。	
達成目標	①互見授業を行い、授業力の向上を図るための教科別授業研究会の実施回数	②各種テストの見直しを行い、その後の学習計画を自主的に作成・修正し、実践できた生徒の割合（学習アンケートによる数字）
	各教科 年間2回以上	80%以上
方策	○互見授業を全教員に対し公開する。 ○互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。 ○定期的に生徒の学力や学習実態を分析し、授業方法の改善をはかる。	○読解力・思考力・判断力・表現力等を育むような質の高いテスト作りに努める。 ○校内模試においてテスト解説授業を実施し、テストを見直す意識を高めるとともに、その後の学習の指針を示す。 ○テストの見直しにより、学習活動におけるPDCAサイクルの徹底を図る。 ○教師が常に自己研修に励み、担任や教科担当者による個別指導の充実に努める。 ○個々の学力に応じた教材について、研究開発をさらに進める。 ○新入生研修で高校での学習法をしっかりと身につけさせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

令和3年度 富山中部高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	①自己の将来像に連なる進路意識を醸成し、進路希望の実現をはかる。 ②第一志望をあきらめず、難関大学への進学をめざす意識を育成する。	
現状	①全員が大学への進学を希望している。大学などと連携した探究的な学習活動・体験の機会を活用する工夫が必要である。 ②自分の夢や希望を具現化するために、意欲的に情報を収集し活用する姿勢に欠け、進路選択が遅れる生徒が増加傾向にある。	
達成目標	① 大学探訪・進路講演会に満足した生徒の割合	②難関10大学+国公立医学部出願した生徒の割合
	大学探訪 … 90%以上 進路講演会 … 90%以上	難関国立10大学と国公立医学部に就願した生徒の割合 … 50%以上
方策	○大学生生活を具体的にイメージさせるために、コロナ感染拡大状況に留意しつつ、2学年の10月に「大学探訪」を行い、卒業生を招いて座談会を開く。3月には大学受験を終えた直後の卒業生、既卒生を招き、「先輩に学ぶ会」を行う。 ○将来の社会的・職業的自立に向けた一人一人のキャリア発達を促すために1学年の生徒に対し進路講演会を行う。事前に希望を集約して要望の多い分野から講師を招き、15分野以上の分科会を設置し実施する。また生徒が具体的に進路を考えられるように、講師は生徒にとって身近な存在として、本校卒業生を主に依頼する。	○面接指導や学年集会、および進路に関する行事を通して、早い時期から高い進路意識を持たせるよう指導する。また3学年では個別指導を強化し、生徒一人一人が志望大学の要求する学力に到達するように努める。 ○SSH事業等を通し探究的な学習活動・体験の機会を増やし、大学で何をするかについて具体的なイメージを抱かせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

令和3年度 富山中部高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	読書指導・体力の向上	
重 点 課 題	①読書指導を充実させ、図書館利用の広報周知を行う。 ②体力の向上に努めさせる。	
現 状	①生徒には、読書を通じて自らの生き方や社会のあり方などを思索する時間が必要であるが、学校生活が多忙化し、なかなか読書の時間が取れていない状態である。 ②体力の低下が危惧される生徒が増えてきている。	
達 成 目 標	①生徒への読書、図書館利用を促す広報刊行物の年間配布回数及び読書の時間の数	②2年次において、持久走の自己最高記録を更新した生徒の割合
	広報活動12回以上、 読書の時間年間12時間以上（1・2年）	70%以上
方 策	○図書広報刊行物を月一回以上発行する。 ○読書の時間を計画的に確保し、探究型読書を実施する。また、年2回「読書会」を行う。 ○読書教養講座の実施や「本の虫」などの発行を通して図書委員による主体的な活動を行い、図書館への理解を深めさせる。	○全学年、体育の授業時に、毎時10分間程度のサーキットトレーニングを実施する。 ○前年度の自己記録を参考に今年度の自己目標を明確にし、体育の授業や部活動などで意欲的なトレーニングに結びつける。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

令和3年度 富山中部高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	学校行事・部活動の充実	
重 点 課 題	①体育大会をより充実させる。 ②部活動を充実させる。	
現 状	①体育大会へのあこがれが、本校への志望理由の一つになるなど、体育大会は、本校最大の行事として知られている。また、体育大会を通じて、生徒たちは人間的にも大きく成長している。 ②全校生徒に対し、いずれかの部に所属するよう勧めている。生徒は、学習と部活動を両立させるために、懸命に取り組んでいる。	
達 成 目 標	①体育大会に充実感を持つ生徒の割合 *大会終了後に実施する、生徒会によるアンケート	②部活動に充実感を得た生徒の割合 *3年生全員を対象にした、8月下旬のアンケート
	80%以上	70%以上
方 策	○体育大会の競技や応援の仕方について、生徒会を中心に改善を常にはかる。 ○競技の練習や準備活動が行き過ぎないように、適切な指導を行う。	○部活動への参加を積極的に促す。 ○限られた時間の中での、効率的な練習や活動を普段から考えさせる。 ○個々の生徒が、学習と部活動のバランスが取れるよう、ホーム担任と部顧問が連携を取って指導する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった

令和3年度 富山中部高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	「科学的思考力」と「自己発信力」の育成による「探究力」の伸長	
重 点 課 題	①探究活動を計画的に実施して、「科学的思考力」を高める。 ②さまざまな研修や学術交流を通して、「自己発信力」を高める。	
現 状	①これまで、探究科学科を中心に、野外実習や課題研究などのさまざまな探究活動を通して、「科学的思考力」の向上をはかってきたが、SSH指定校としてより計画的に全校生徒の「科学的思考力」を育成する必要がある。 ②海外研修などの研修・実習や学術交流に参加する生徒が増えている。	
達 成 目 標	①-1 野外実習、大学実習に対するそれぞれの目標達成度 *各実習事後に実施するアンケート ①-2 ルーブリックによる探究活動の評価	②研修参加生徒に対する研修前後のアンケート結果の分析
	①-1 各90%以上 ①-2 レベル3(目標)に到達した生徒の割合80%以上	①研修に参加した生徒の事後の自己評価アンケートで、「自己発信力」が向上した割合70%以上
方 策	○野外実習や大学実習では、実習の内容や方法について十分に打合せを行ない、生徒が興味関心を抱き、積極的に参加できる工夫をする。 ○課題研究をルーブリックを用いて評価し、「探究力」の伸びをはかる。大学などとの連携をはかり、探究活動を充実させる。	○研修や学術交流に向けて積極的に自分の意見や考えを発信できる力を育てる工夫をする。 ○事後研修により、研修や学術交流を通して身につけた「自己発信力」の維持向上を図る。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した C現状維持 D現状より悪くなった